

平成30年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	プレ・蔵と現代美術展2018
団体名	蔵と現代美術展実行委員会
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
事業の目的	蔵の空間は現代美術等の展示発表に非常に有効で、インパクトがある。蔵の歴史性等と相まって相乗効果を醸し出す。 要するに、川越における現代美術の普及と川越の歴史的空間と文化を紹介すると共に川越の観光に寄与することを目的とする。
事業の実施内容	[開催時期] 2018年11月17日(土)～25日(日) 9日間 [場所] 屋内施設5ヶ所、屋外施設2ヶ所、内合同展示施設1ヶ所 [企画内容] 第6回蔵と現代美術展2019へ向けて、展覧会の周知や参加者の拡大を目的とする「プレ・蔵と現代美術展2018」を行った。 [選考] 参加者は公募により、実行委員会の運営に積極的に関わられる方を選出した。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 美術家が蔵空間に潜んでいる歴史性をもう一度引き出し、その今日的意義を見直します。そして、そのことにより現代美術だけに拘らず、川越における蔵に繋がる文化や観光の振興を促す。 川越市の役割 広報等により、他の文化事業と併せたPR。 特に今回はJ:COMで、「長々と散歩」等に取り上げて頂くことが出来た。
事業の成果	今回のプレ展は来年の本展「第6回蔵と現代美術展2019」に対するプレ展だった。故に、参加メンバーの若返りと企画自体の裾野の広がりがあり、来年の第6回展のためのプレとしての位置付けの成果が上がった。 内容的には、プレとは言え「蔵と現代美術展」は大分知名度も上がり、開催規模が年ごとに拡大しつつある。今回はJ:COM等の報道機関に取り上げられた他、若い実行委員の参加により、いろいろな可能性が広がって来ている。 来年は本展「第6回蔵と現代美術展2019」であるが、文化芸術面での蔵空間の掘り起こしは着実に進んで来ているおり、川越における蔵空間の活用に更に奥行をもたらし来ようと思える。 観覧者は1会場1日50人9日間で450人、450人×8会場で延べ凡そ3600
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協働事業は今回で3回目の助成だった。今後とも、この「蔵と現代美術展」は続けて行く予定であり、来年開催の本展は、埼玉県「オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業」及び「芸術文化振興基金」等の助成申請手続きを計画している。 今後も事業は続けて行くものの、3回目の協働事業を受けてしまっており、今後の実施について対応を考えて行く必要がある。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	同上

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成30年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	小江戸川越市民音楽祭
団体名	小江戸川越市民音楽祭実行委員会
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
事業の目的	川越市内の小学校、中学校、高校、大学や企業に所属する音楽団と協働して音楽祭を開催し、奏で伝える喜びを体験できる場を提供するとともに、川越市民をお招きして、広く聴く喜びを体験できる場も提供することで川越市における音楽文化の振興を推進することを目的とします。
事業の実施内容	「小江戸川越市民音楽祭」の開催 開催日 2018年12月8日 13:00会場 13:30開演 17:00終演 開催場所 ウェスタ川越 大ホール 出演団体 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園、川越市立山田小学校、川越市立山田中学校、日本フィルハーモニー交響楽団、川越市立中央小学校、尚美学園大学、東邦音楽大学、パイオニア吹奏楽団、パイオニア交響楽団（9団体：223名） 来場者数 約700名
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・音楽祭の企画、運営 ・ポスター、チラシ、パンフレットの制作 ・音楽祭の開催告知、広報活動
	川越市の役割 ・川越市役所内や施設等関係先との連絡調整 ・音楽祭の開催告知、広報活動
事業の成果	和太鼓、合唱、弦楽四重奏、金管バンド、Jazzバンド、2台ピアノ、吹奏楽団、交響楽団、など多種多様の演奏スタイルで、川越市民に音楽の楽しさを感じてもらいました。 協賛企業の協力で、音楽を振動に変えて身体で音楽を楽しめる装置（ボディソニック）を設置して、聴覚に障害のある方にも音楽を体感していただくシートを準備することにより、健聴者から聴覚に障害のある方まで幅広く音楽を楽しんでいただける音楽祭となりました。 これらにより、音楽祭の目的とした「川越市における音楽文化の振興を推進」することが出来ました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	今回開催した音楽祭は1,700名のキャパがある会場ウェスタ川越大ホールに対して、来場者数は約700名と少々期待には届かない来場者数に留まってしまいました。次回開催する場合は、事前の告知活動に工夫をすることで来場者数を増やし、より多くの市民の皆様にも音楽を聴く喜びを体感していただける音楽祭にしなければいけないと考えました。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	今回の協賛企業が定期的に行っているボディソニックを用いた『身体で聴こう音楽会』等とのコラボレーションにより、本事業で目的とした「川越市における音楽文化の振興を推進」を継続できればと考えます。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

## 平成30年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	紅赤いも120年記念事業～生産保存により観光振興に役立てる
団体名	川越サツマイモ商品振興会
市担当課名	川越市農政課
事業の目的	<p>この「紅赤いも120年記念事業」は、川越地方で古くから栽培されている伝統作物で、且つ文化財的なブランドのサツマイモである「紅赤」誕生120年記念を契機にして、改めて市民にその価値を広く知らしめると共に、川越地方の観光資源として再度光りを当て、「サツマイモ商品文化世界一のマチ」としてアピールし、川越市の観光産業の振興に役立てたい。</p> <p>減作しつつある紅赤の生産保存活動（紅赤ファンを増やす）と、観光振興ブランド商品として再活用する取り組みの事業である。</p>
事業の実施内容	<p>1：8月30日に「川越地方サツマイモ商品文化世界一宣言 / 紅赤いもの日（12/1）制定宣言」を関係者一同で、川越市役所にてマスコミ向けに行った。（35名参加）</p> <p>2：9月中旬に、2市1町（川越市・さいたま市・三芳町）の統一チラシ「記念事業イベント案内」1万部、「紅赤おすすめガイド」1万部、「紅赤いもの日制定宣言等」5千部を制作し、関係各所へ広く配布した。</p> <p>3：サツマイモの日（10月13日）に、『紅赤120年の魅力』冊子（A5判・64頁・1000部）を発刊し、いもの日まつりにて披露し、その後、関係各所へ配布した。希望者へは、一冊600円にて実費頒布した。</p> <p>4：サツマイモ特別企画展（川越市立博物館 10/13～11/25 「川越とサツマイモ」、三芳町立歴史民俗資料館 9/14～11/25）開催への協力を行った。</p> <p>5：紅赤商品応援キャンペーン（11/10～12/16）を実施した。販売協力店に宣言の幟旗を掲示してもらい、アピールしてもらった。</p> <p>6：11月26日に浦和で開催された「紅赤発祥120周年記念シンポジウム」（浦和コミュニティセンター、150名）と「紅赤マルシェ」（10店）に協力。</p> <p>7：12月1日の第1回紅赤いもの日に、いも膳にて「紅赤いも天ぷらを楽しむ会」を開催し、普段食べられない紅赤の丸揚げ天ぷら等を楽しんでもらった。3000円会費（24名）</p> <p>8：12月8日川越総合卸売市場の土曜感謝市にて「紅赤食育イベント」を開催してもらった。紅赤大学芋の試食、焼き芋販売、パネル展示等。</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割・・・冊子『紅赤120年の魅力』編集発行、2市1町の統一チラシ「紅赤おすすめガイド」「記念事業イベント案内」「紅赤いもの日制定宣言等」の製作・配布、紅赤商品応援キャンペーンの実施、12月1日紅赤いもの日「紅赤を楽しむ会」開催、その他紅赤に関するイベントの協力など</p> <p>川越市の役割・・・関係各課（観光課・農政課・市博物館）の連絡調整、関係団体の「紅赤120年記念事業連携連絡会」開催のための会場手配、市広報紙への紅赤関係記事の掲載、市小中学校生徒の学校給食への紅赤食材提供など。</p>
事業の成果	<p>紅赤を生産している2市1町（川越市・さいたま市・三芳町）の関係団体の連携が図れて、紅赤120年の記念イベントがそれぞれ2市1町で実施でき、大きくアピールできた。さらに12月1日を「紅赤いもの日」として制定宣言できたことは大きな成果であった。また、2017年度に比べマスコミや市広報等など広く取り上げていただき、紅赤やその商品を市民や観光客に対して広く周知することができた。</p>

<p>協働事業として 継続する場合の 課題とその対応 策</p>	<p>紅赤を今後も生産保存するためには、2市1町と関係団体が引き続き連携できるような連絡会の開催と、窓口となる行政の明確化が必要である。さらに消費者も取り込んだイベントなどの開催。そのための助成金の継続。</p>
<p>補助金が終了し た場合の当該事 業の見通し</p>	<p>当会の事業資金は少ないため、助成金や行政の援助がないと継続は難しい。</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成30年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	本を読む、文字に親しむ。「まちをめぐって、活版印刷体験」事業
団体名	學のまちkawagoe実行委員会
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
事業の目的	インターネットやスマートフォンの普及などによる活字離れが進む昨今、読書環境において市内の子どもたちを主な対象とし、本作り、作品づくりを通して本をよむこと、文字に親しむことの大切さを体験してもらうイベントです。
事業の実施内容	2018年8月1日から17日 市内スタンプラリー8箇所（ノベルティあり）、2018年8月17日 ウエスタ川越にてイベント開催、講演3名、活版印刷ワークショップ、文字、印刷関連の展示解説でのべ400人の参加。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 読書や本、文字に関する知識やそれに親しむ大切さを、専門的な見地から説明し、周知していく。それをとおして、川越市の子どもたちを中心に地域の文化や歴史との触れ合いをとおした地域発展に貢献する。 川越市の役割 ・ 広報紙の掲載（イベント情報での掲載ではなく、協働事業であることが一般の人に分かり参加者が増えるような掲載） ・ 教育委員会などの関係行政機関との調整
事業の成果	スランプリ実施で約250人が川越市内のスポットを巡り、改めて地域の文化や歴史に親しみました。イベントでは、作家、フォントデザイナー、エディトリアルデザイナーの専門的な講演をとおして、「本」のことをより詳しく知っていただくことができました（各回満席）。活版印刷ワークショップは活字に触れる体験でしたが、14時には参加人数が多すぎ、締め切ることとなりましたが、同時開催の展示については多くの方に印刷や文字の歴史をゆっくりと見学していただきました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協賛金による市内企業の援助もあり、大きく広報ができましたが、2018年度は1回のみ開催にとどまったため、2019年はスケジュール化して定期的に活動を行う予定です。また、委員の人数が少ないため、今後は関わる人数を増やし、より円滑に行えるようにしていきたいと考えています。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	無理のない範囲で協賛企業様とともに活動を進めるため、今年度は長期計画をより詳細に検討していきたいと思っています。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

## 平成30年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越きもの日事業
団体名	川越きもの日実行委員会
市担当課名	観光課
事業の目的	川越きもの日実行委員会では、「きものが似合うまち川越」を合言葉に、毎月8の付く日を「川越きもの日」として、きもの姿で川越を楽しんでいただけるお客様を増やすことを目的として様々な事業やサービスを提供します。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月18日には、蓮馨寺にて無料着付けや物産展などを開催し、きもの姿の誘客を図った。(毎回30-50人参加)</li> <li>・8月18日の周年記念日には、蓮馨寺にて「ゆかたコンテスト」を開催し、広くきものを着る機会を提供した。(参加者40名)</li> <li>・11月18日に蓮馨寺にてきもの供養を開催した。</li> <li>・1月18日には、「きもので初詣」と銘打ち、市内の寺院を巡り、写真撮影や食事会を開催した。(参加者45名)</li> </ul>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割：事業の実施・協賛店の拡大・事業の周知
	川越市の役割：広報・市の施設の利用
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月18日のきもの日設立周年記念日に実施した「ゆかたファッションショー」には、秩父など川越市外からも参加される方が増え、毎年50名前後の方が思い出のあるゆかたを披露する場として定着してきました。また、外国人観光客なども見学され、きもの似合う街川越をアピールすることができました。</li> <li>・今年度新たに実施した「きもの供養」では、引き取った17着のきものを供養しました。</li> </ul>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	18日開催している通常月の蓮馨寺講堂での体験や物販事業への集客が少ないため、毛氈を敷いた席と和傘をインスタ映えする展示物として用意することで誘致を促したい。さらにファッションショーなどの広報効果のあるイベントの回数を増やし、集客に努めたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成30年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会事業
団体名	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会
市担当課名	産業観光部 観光課
事業の目的	小江戸川越粋な伝統和芸を守り育てる会は、小江戸川越の更なる活力の向上に資するため、小江戸川越で培われた粋な伝統和芸を守り育てることを目的として様々な事業やサービスを提供します。
事業の実施内容	小江戸蔵里・八州亭において、4月から3月まで毎月第二、第四土曜日の夕方に「伝統和芸鑑賞会」を開催。 1月までの状況は、計18回の開催で、観客数が575名（昨年495名）、参加団体数が15団体（昨年17団体） 演目内容は、幫間芸、篠笛、箏、日本舞踊、芸妓衆、民謡、尺八、雅楽、三線、巫女舞、三味線、琉球舞踊、かつぼれ、地唄舞等
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・小江戸蔵里「八州亭」において、伝統和芸鑑賞会を実施 ・各回毎に伝統和芸鑑賞会のチラシを作成し、小江戸蔵里、観光案内所で配付 ・共通前売チケットを作成し、小江戸蔵里「八州亭」で販売
	川越市の役割 ・広報紙の掲載や市の施設の利用
事業の成果	川越市の広報紙掲載記事で、各回の演目の周知が図れたことで、参加者が増えていることは、協働による成果が出ていると感じています。 「伝統和芸鑑賞会」の参加人数が平均で31名（昨年平均28名）と毎年増えてきて、徐々に和芸の文化が定着してきました。 また、共通前売券の販売枚数が1月末時点で206枚（昨年153枚）と大幅に増え、リピーターが多く訪れるようになってきており、認知度が高まってきた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協働提案事業としては「伝統和芸鑑賞会」が中心となります。昨年に比べ、チラシの配布場所を観光協会と蔵里・八州亭に加え、川越駅、本川越駅でも行うことにしました。まだまだ認知度が低いと思いますので、ウエスタ川越や各ホテル等にも配布場所を広め、イベントの周知を広めていきたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	毎回、「伝統和芸鑑賞会」の運営に協力していただいている東京国際大学の学生たちと共に、最近増えている外国人観光客にも参加していただけるように、英語による発信を今後は増やし、事業を発展させていきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成30年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越市小学校英語ティーチング・アシスタント
団体名	東京国際大学
市担当課名	川越市教育委員会教育センター
事業の目的	川越市の小学校の外国語活動の授業における学習支援と大学生のインターンシップ活動を融合させ、英語を初めて学習する児童、英語を教える小学校の先生、小学校の先生を補助する大学生の三者が有機的に成長できることを目的とした地域の小学校英語教育に関する事業である。
事業の実施内容	大学生が小学校教員の英語の授業補助者として活動した。留学経験またはTOEIC650点などの要件を満たし、登録した大学生は25名。3月26日東京国際大学で研修会20名参加；4月～5月上旬 配置校決定の作業、春学期13名（14校）の参加が決定→連絡→それぞれの配置校との打ち合わせ；5月～7月 週1回程度で英語の授業の補助を行う；9月5日東京国際大学で小学校英語の専門家による研修を実施。参加者20名；9月：秋学期配置校決定（7名、7校）→連絡→配置校と大学生の打ち合わせ；10月～2月週1回程度で英語の授業の補助を行う。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割：①ティーチング・アシスタントとして推薦できる大学生の選考 ②大学生と川越市教育センターとの連絡調整 ③研修会実施 ④大学生の安全確認、指導、助言など
	川越市の役割：①小学校へ派遣要請を聞き、大学生と配置校のマッチングを行う ②配置校との連絡調整 ③説明会への参加 ④大学生の安全確認、実施状況確認、助言など
事業の成果	大学生アシスタントが明るく笑顔で児童に接し、担任と一緒に対話や発音のモデルになったり、小グループや支援が必要な児童の近くで指導したりして、小学生が英語に親しみを持つことに貢献できた。子どもたちは、年齢が近い大学生に話しかけやすかった。大学生は、教えることを体験的に学べた。 事業の成果は小学校の先生が最も感じていると思うが、小学校から提出された報告には、授業における大学生アシスタントや児童の様子について上記のような記載が多くあり、例えば、「ALTと積極的にコミュニケーションを図り、授業の中で学級担任との間に入って意思疎通を図ってくれた。おかげで、授業をスムーズに進行することができた。今年度はじめて本校に配置された英語ティーチングアシスタントだが、今後も続けたい」という感想に代表されるように、大学生がお役に立てた報告が数多くあり、成果が大きいと思う。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協働事業として継続するためには、活動時期を考え直さなければならない。現在は、2月の末までが活動で、活動報告書は小学校から教育センターを通して大学に提出されるので、補助金の報告書の提出期限に秋学期の活動報告書が間に合う設定になっていない。秋学期の活動終了を1月末または2月上旬にしなければならない。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	何らかの形で継続していきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。



平成30年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	地域猫活動推進事業
団体名	小江戸地域猫の会
市担当課名	川越市保健所食品・環境衛生課
事業の目的	飼い主のいない猫の不妊・去勢手術補助金事業を活用することにより、飼い主のいない猫に起因する苦情を減らして、地域猫対策の大切さを理解していただく。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●6月25日～7月5日 ウェスタ川越2階ワークショップ・情報コーナー「さくら猫活動写真展」</li> <li>●9月18日～9月25日 市役所本庁舎1階ロビーでパネル展示</li> <li>●10月20日・10月21日 川越まつりにて広報活動・猫の譲渡会</li> <li>●12月9日 ウェスタ川越 南公民館</li> </ul> <p>「飼い主のいない猫のシンポジウム」を所沢・狭山・入間市等と合同実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●飼い主のいない猫の相談対応 (2件)</li> <li>●随時飼い主のいない猫の相談に対応し約180頭の不妊・去勢手術を実施</li> </ul> <p>また、40頭の保護・譲渡を実施。</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 パネル展・シンポジウム開催を主導し、飼い主のいない猫の相談に対して現地へ赴いて、不妊去勢手術のアドバイスや援助をする。また、広報活動を行う。
	川越市の役割 市民の相談への対応。飼い主のいない猫の問題解決に有効な地域猫活動の市民への広報。
事業の成果	本年度は、「川越市動物愛護推進員制度」が始まり、ペット防災や地域犯罪の防止などのより多様な活動が可能になりました。また、広域の連携のため、狭山市・所沢市・入間市の愛護団体との共同シンポジウムも開催することが出来ました。個別の相談対応でも、180頭を超える不妊去勢手術のお手伝いや40頭の子猫の譲渡を行いました。相談会開催を予定していたのですが、会の人材不足等の理由により2回の開催で終了しました。全体的には昨年同様の成果があったと思います。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協働事業としては、地域猫活動が「行政・住民・ボランティア」の三者協働が大切だとされていますので、継続には意味があると思います。課題としては、こちらからの報告が不足している（人材不足のため）ことを改善したいと思っております。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	引き続き出来る範囲で活動していく予定です。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。